

まきばの桜まつりの様子は、インターネット動画でも配信中。「YouTube 小林市公式チャンネル」で検索ください。



釣り堀体験なども今年初めて実施したまきばの桜まつり

のじりこびあとの桜と桜まつり



## 市内の桜の名所が大賑わいのじりこびあと牧場で桜まつり

桜が見頃を迎えた3月中旬から下旬、市内各地の桜の名所が、市民や観光客で賑わいました。22日には「第4回のじりこびあ桜まつり」、28、29日には「まきばの桜まつり」が開催。まきばの桜まつりは、満開の時期も重なり、例年以上の大賑わい。まつりの特設会場には出店が並び、多彩なステージイベントが行われたほか、28日の夜には花火も打ち上げられました。

## 市教委が教育プランを作成 第1弾は鉛筆グリップを配布

市教育委員会では、市の教育目標を達成するための具体的な事業をまとめた「0歳から100歳までの小林教育プラン」を新たに作成しました。目標、現状・課題や35個にのぼる事業を掲載。4月9日、その第一弾として、市内全小学校の新入生に鉛筆の握り方を正しく身に着けるグリップを配布しました。



入学式後、配付された鉛筆グリップを使う新入学生。小林小の花房実桜さんは、「上手に字がかけられるようになりたい」と話していました



新入学生を代表して朝稲千尋さんが「仲間や地域、家族を心の支えにして、3年間学びたい」と誓いの言葉を述べました

## 小林看護医療専門学校開校 看護学科に40人が入学

4月3日、西諸地区で初の正看護師養成校となる「小林看護医療専門学校」が開校し、看護学科に入学する1期生40人の入学式が文化会館で開催されました。志戸本宗徳校長は「3年後は全員が国家試験に合格し、地域の医療・福祉に貢献する人材になってほしい」と式辞を送りました。



TNAソリューションデザインの竹原社長



霧島山の現状を説明した東京大地震研究所の中田節也教授



## 「規制は柔軟なシステムに」、「一人一人がフェイスブックで情報発信を」 火山噴火予知連の副会長ら、霧島ジオパーク講演

霧島の現状を把握し、魅力の発信について学ぶ霧島ジオパーク講演会「霧島の魅力を世界へ」が3月25日、文化会館で開催されました。市内外から200人が参加。1部は「情報発信力を身につけて霧島ジオパークの魅力の世界へ」と題し、(株)TNAソリューションデザインの竹原

英男代表取締役が登壇。霧島ジオパークの認知度が低い現状や、インターネットで調べても、知りたい情報が見つからないことなどを挙げ、「個人で情報発信できるフェイスブックを活用し、一人一人が情報を発信すれば、ガイドの顔も見え、霧島の知名度も上がる」と提案しました。

第2部は、火山噴火予知連絡会副会長を務める東京地震研究所の中田節也教授が霧島の現状と魅力について講演。いまだマグマ供給が続いており、注意が必要だとしながらも、海外の例を紹介し「状況の変化に応じた柔軟な立入規制システムの検討も必要ではないか」と話しました。

## 生活困窮者の自立を支援します 生活自立相談支援センター開所

4月1日、経済的に生活に困っている人のための相談窓口「小林市生活自立相談支援センター」が市役所新別館に開所しました。同センターでは、相談に来た人にどのような支援が必要か一緒に考え、自立に向けた手助けを行います。同日、センターでは開所式が行われました。



看板の除幕を行った肥後市長と社会福祉協議会種子田與市長。月曜～金曜、9時～16時まで無料で相談を受け付けます(TEL 23-0338)



記念撮影。川崎明理事長は「畑かんは西諸の農業の要。浜ノ瀬ダムの一刻も早い完成を願っています」とあいさつしました

## 水管理システムや設備を管理 西諸畑かんの拠点施設が竣工

西諸畑かんの水管理システムの制御などを行う「西諸地区中央管理所」と、国・県の事業で整備されたダム・パイプラインなどの施設の維持管理を行う「西諸土地改良区」の合同事務所が東方に完成し、3月20日、竣工式がありました。神事と記念式典があり、関係者ら70人が参加。西諸畑かんの拠点となる施設の完成を祝いました。

### 永久津中1年生がキャリア教育を受ける

3月20日、仕事や進路について考える「キャリア教育」が永久津中でありました。小林ライオンズクラブの会員らを講師として招き、自身の仕事やその職業に就くための進路を説明。馬場昭次会長は、「将来についてしっかり考え進んでほしい」と生徒に伝えました。



### 天然記念物のエヒメアヤメを鑑賞

4月4、5日にエヒメアヤメを守り育てる会主催の「エヒメアヤメ祭り」が勸請岡公園でありました。約50人が来場し、会員らの説明を受けながら天然記念物エヒメアヤメを鑑賞。大藪良一会長は「この祭りを通して、多くの人に知ってもらいたい」と話していました。



### 新庁舎建設市民懇話会が設計案に提言

市内団体の代表18人からなる小林市新庁舎建設市民懇話会が3月30日、小林市新庁舎建設基本設計（案）に関する提言書を提出しました。肥後市長に提言書を手渡した倉田富夫会長は「小林市の特性を生かした素晴らしい庁舎建設を期待します」とあいさつしました。



### 人権擁護委員奥村健一郎さんに感謝状

4月20日、人権擁護委員を退任した奥村健一郎さんに感謝状が贈呈されました。人権啓発や人権相談など3年間にわたり尽力。奥村さんは「3年という短い期間だったがとても勉強になった。今後も、別の角度からふるさとのために役立てれば」と話していました。



代表あいさつをする永野さん。新入生は同日、小林西高衛生看護科にも入学。同校に通いながら、看護の知識と技術を学びます

### 強く優しい看護師を目指して 准看護学校に26人入学

4月10日、西諸医師会立小林准看護学校の入学式が行われました。内村大介校長が「多くの困難があると思いますが、高い目標を持って研さんに励んでください」と祝辞。新入生を代表し永野百喜子さんが「学業や実習に努力し、強くやさしい看護師になりたい」と決意を述べました。



持木町長（写真左）と肥後市長（写真右）。能登町からは、スワイガニや日本酒などが返礼品のラインナップに追加されます

### 能登町とふるさと納税で連携 互いの特産品を返礼品に追加

4月19日、姉妹都市石川県能登町とふるさと納税の事業連携協定を結びました。お互いの特産物を返礼品（姉妹都市セット）として取り扱い、それぞれのまちのファン拡大を図ることが目的。持木一茂町長は「特産品を通し、互いのまちに全国の人が来たいと思うようになってほしい」と話していました。



### 和牛・乳牛 144頭が出場 小林市総合畜産共進会

4月11日、第10回小林市総合畜産共進会が小林地域家畜市場で行われました。和牛4部門に118頭、乳牛4部門に26頭が出場。和牛は、瀬崎直人さんの「ももひめ」、乳牛は温水洋志さんの「トップグリーン アセンライ ニーナ」がグランドチャンピオンに。各部門の順位は以下のとおりです。

【結果（順位順）・敬称略】  
■和牛の部▽雌子牛 = 谷之木保幸、竹山信夫、竹山昭徳、坂之下智、  
■乳牛の部▽去勢子牛 = 立山健二、相牟田正明、  
■育成1類 = 池田敏文、吉谷文則、土居義信  
■育成2類 = 瀬崎直人、瀬崎直人、下原純義  
■乳牛の部▽乳牛1類 = 中村大輝、中村大輝、鶴野裕二▽

■乳牛2類 = 温水洋志、中村大輝、黒木英教  
■乳牛3類 = 温水洋志、谷口俊文、温水洋志  
■乳牛4類 = 温水洋志、谷口俊文、轟木和広  
■種牛団体▽和牛の部 = 野尻町畜産振興会  
■枝肉共励会▽肉牛枝肉の部 = 岩下盛明  
■環境衛生共励会▽養鶏の部 = 横山剛光  
■乳質改善共励会 = (有) ダイワファーム



### チョウザメの産地目指して 市直営の養殖場が稼働

3月4日、チョウザメ養殖業者の新規参入に繋げるための市直営の養殖場が東方に完成し、同25日に養殖を開始しました。チョウザメは、雌雄が判別できるようになるまで約3年、キャビアが採取できるようになるまで約10年かかります。そのため、養殖場では雌雄が判別できるまでの約3年間飼育。平成28年5月から、養殖業者に販売する予定です。



Photo1 直径6mの水槽1基と8m水槽7基を設置し、現在、900匹を飼育。3年後には1500匹を飼育する予定。2 自動給餌機を使い、餌の管理を行います。3 水槽は、井戸からくみ上げたきれいな水で常に満たされています。

